

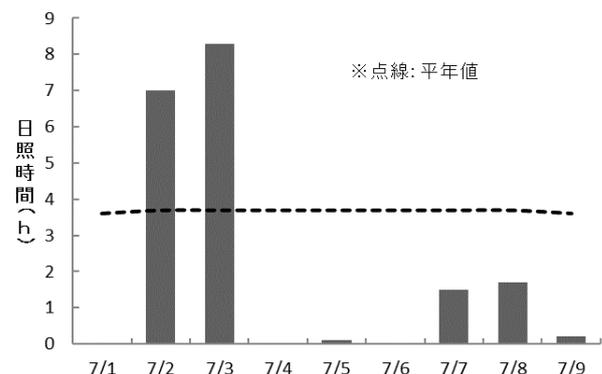
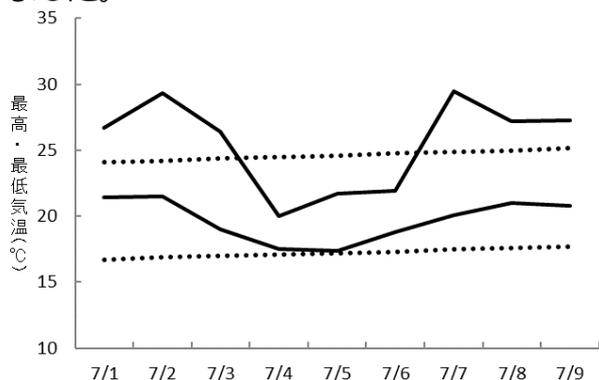
令和2年産 仙南稲作情報（第5号）

令和2年7月14日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3431 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

- 南部平坦地帯では概ね幼穂形成期に達しており、出穂は平年並の見込みです。
- 低温時は深水により幼穂を保護しましょう。
- 適期適量の追肥で品質の向上を図りましょう。
- いもち病の感染好適条件続く。予防防除を！

1 気象経過（丸森アメダス、7月1日～7月9日）

- ・最高気温は7/4～6にかけて平年を下回りましたが、最低気温は平年よりも高く推移したため、平均気温は平年よりも高く推移しました（平年差+1.6℃）。
- ・日照時間は平年よりも少なく（平年比57%）、降水量は平年よりも多く（平年比220%）経過しました。



※仙台管区气象台（7/13 発表）の「日照不足と長雨に関する宮城県気象情報第1号」では、日照時間が少なく、降水量の多い状態が今後10日間程度続く見込みです。

2 管内の生育状況

【7月10日調査結果】

（水稻生育調査ほ結果）

- ・南部平坦の「ひとめぼれ」は、幼穂長が1mmを超え概ね「幼穂形成期」に達していると考えられます。
- ・南部平坦の「つや姫」は、5月上旬植えでは、幼穂長が1mmを超え「幼穂形成期」に達しているとみられますが、5月下旬植えでは、幼穂長が1mm未満で間もなく「幼穂形成期」に達するとみられます。
- ・西部丘陵の「ひとめぼれ」は、葉数は平年並みに推移していますが、莖数が前回と同様でした。幼穂長は1mm未満で間もなく「幼穂形成期」に達するとみられます。
- ・山間高冷の「やまのしずく」は、葉数が平年よりもやや進んでいますが、幼穂は確認できませんでした。

□ 管内の生育調査結果（7月10日）

□ 皆さんのほ場と場所や品種、田植日が近いところのデータを参考にして下さい。

No	ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
				本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m ²)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差	(GM)	平年差	前年差	(cm)	平年差	前年差
1	角田市	南部平坦	ひとめぼれ	5/16	5/12	66.4	106	114	442	96	92	12.0	0.1	0.5	41.5	5.4	2.0	1.8	▲7.4	▲2.0
2	大河原町	南部平坦	ひとめぼれ	5/9	5/7	66.5	100	107	629	106	112	11.5	0.5	0.1	36.8	▲1.3	▲1.5	5.1	▲0.2	1.6
3	角田市	南部平坦	つや姫※	5/23	5/20	62.4	97	99	486	91	98	11.0	▲0.1	0.8	43.8	1.9	▲0.5	0.2	▲0.3	0.2
4	村田町	南部平坦	つや姫※	5/5	-	61.9	96	-	447	83	-	11.9	0.8	-	41.2	▲0.7	-	1.8	1.3	-
南部平坦平均 ひとめぼれ・つや姫				5/13	5/13	64.3	100	105	501	95	98	11.6	0.2	0.6	40.8	1.4	0.0	2.2	▲1.7	▲0.1
5	白石市	西部丘陵	ひとめぼれ※	5/17	5/20	50.4	92	102	370	102	135	10.7	0.2	1.1	40.1	▲0.8	▲2.3	0.2	▲1.7	0.2
6	七ヶ宿町	山間高冷	やまのしずく	5/23	5/20	59.8	119	117	603	166	118	10.2	0.5	1.2	47.9	2.1	0.5	0.0	▲0.9	0.0

□ 「だて正夢」の生育調査結果（7月10日）

- ・南部平坦及び西部丘陵の「だて正夢」は、幼穂長1mmを超え「幼穂形成期」に達しているとみられます。
- ・茎数は、南部平坦及び西部丘陵ともに有効茎数を確保しているとみられます。

ほ場所在地	地帯区分	品種	田植		草丈		茎数		葉数		葉色		幼穂長	
			本年	前年	(cm)	前年比	(本/m ²)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差	(cm)	前年差
角田市	南部平坦	だて正夢	5/5	5/5	71.9	102	371.5	76	11.2	0.2	42.8	0.9	2.5	▲1.4
蔵王町	西部丘陵	だて正夢	5/19	5/14	68.3	107	472.3	110	9.8	▲0.2	44.3	▲3.2	1.0	1.0

3 今後の管理

【生育ステージの予測】

今後は、生育状況に応じた追肥や、病害虫防除の実施が重要です。

生育ステージは、「ほ場ごと」に異なるので、幼穂長を測定することで、正確な生育ステージを把握できます。

幼穂長の測定が困難な場合には、下表を参考にしてください。

今後の天候が平年並と仮定すると、南部平坦部の中生品種の出穂期は8月3日頃と予測されます（7月8日発行：宮城県米づくり推進本部情報第1号より）。

気象庁の1ヶ月予報（7月9日発表）では、向こう期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多く、期間の後半は天気が周期的に変わるとされ、気温は1週目は平年並または低い確率がともに40%、2週目は平年並の確率が50%、3～4週目は平年並みまたは高い確率がともに40%とのことで、生育は今後の天候により変動することが予想されますので、注意してください。

表 幼穂の発育過程と出穂期までの日数等の目安

発育過程	幼穂形成期	減数分裂期	
		始期	終期
出穂前日数	25日	15日	12日
幼穂長(mm)	1～2	30～40	80～100
葉耳間長(cm)	-	-10	±0

地帯区分	対象品種	田植時期	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期
南部平坦	ひとめぼれ	5/3～5/19	7/2～7/10	7/12～7/20	7/31～8/6
西部丘陵	ササニシキ	5/7～5/26	7/5～7/16	7/15～7/26	8/3～8/12
山間高冷	やまのしずく	5/7～5/27	7/13～7/21	7/23～7/31	8/12～8/19

注) 田植始期から終期までの期間に対応した幼穂形成始期、減数分裂期、出穂期の予想。

【水管理】

① 中干し後の水管理

- ・幼穂形成期までに、中干しは終了します。
- ・中干し終了直後は走り水程度とし、その後は間断かん水を行い、根に十分に水分を与えつつ酸素を供給しましょう。

💡 倒伏が心配される復元田等では、目標莖数を確保後、落水期まで飽水管理としましょう。飽水管理とは、田面の足跡に水がなくなったら入水し、土が十分湿ったら落水する、を繰り返し、根の健全化と莖の充実を図る栽培法です。ただし、出穂開花期は湛水します。

② 低温時の水管理

- ・幼穂形成期から出穂開花期にかけては、低温の影響を受けやすい時期で、特に減数分裂期は、稲が最も低温に弱い時期です。

低温時（日平均気温 20℃以下又は最低気温 17℃以下）には、深水管理とし、幼穂を低温から保護しましょう。

幼穂の伸長に合わせ、段階的に水深を深くすることが重要なので、けい畔の補修を今のうちに行いましょう。

《深水の目安》

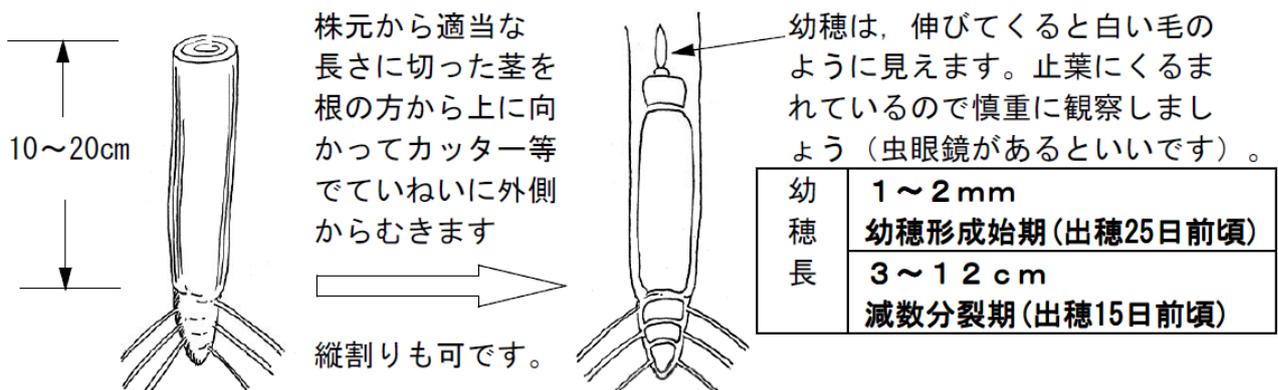
幼穂形成期（出穂 25～15 日前）：水深 10cm
減数分裂期（出穂 15～10 日前）：水深 17～20cm

【追肥】

□ 幼穂長を確認して、適期に追肥をしましょう。

- ・追肥は、幼穂長を調べて、「幼穂形成期」と「減数分裂期」に行いましょう。
※品種によって、追肥回数や追肥時期が異なりますので、下表を参照ください。
- ・幼穂形成期の追肥は、分けつの退化防止と1穂粒数の増加に効果的です。
しかし、窒素供給が過剰だと、下位節間を伸長させ倒伏を引き起こしたり、粒数過剰となり登熟不良を招いてしまいます。
- ・減数分裂期の追肥は、白未熟粒の発生を低減するほか、登熟期の光合成能力向上により乳白粒の低減等が期待されます。
※適正な追肥量は食味に影響しません。

□ 幼穂長の調べ方について



□ 追肥をするか、しないかの判断について

- ・葉色を測定して、葉色が目安の範囲内以下でしたら、追肥をしましょう！
- ・葉色：「葉緑素計（SPAD-502）」又は「葉色板（カラスケール）」（富士平工業の7段階表示のもの）を用います。
- ・下記の表を使って、葉色板の値から施肥の判断ができます。

葉色板(単葉)と葉緑素計の関係

葉色板(単葉)	4.5		5.0				5.5		6.0				6.5		
葉緑素計	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48

※幼穂形成期における施肥判断の目安

ひとめぼれ	←————→
つや姫・まなむすめ	←————→
だて正夢	←————→

○穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	5.0~5.5	38~40	出穂25~20日前 1kg/10a	4.5~5.0	35~37	出穂15~10日前 1kg/10a
つや姫・まなむすめ	3.9~4.2	35~37	出穂25~20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.4~3.7	32~34	出穂15~10日前 1~1.5kg/10a
だて正夢	—			5.0	37~39	出穂15~10日前 2kg/10a

※「だて正夢」の追肥について

- ・栽培マニュアルでは、追肥は減数分裂期に窒素成分で2kg/10aを施用となっています。
- ・有効茎数の不足が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分でそれぞれ1kg/10aずつ施用してください。
- ・生育ステージにおける生育量、葉色等は下表を参考にしてください。

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	64~70	76~82
茎数(本/m ²)	390~460	380~420
葉色 (SPAD 値)	40~42	37~39

【 病虫害防除 】

① いもち病

- ・葉いもちの感染に好適な気象条件が、7月2日以降4回出ています（アメダス：丸森）。水田をこまめに見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。

② 斑点米カメムシ類

- 水田周辺の雑草地、農道、けい畔などの草刈りは、遅くとも7月20日までに終わるよう

にしましょう。

※本県の主要種であるアカスジカスミカメに対しては、幼虫の発生時期である7月半ば頃の草刈りが密度抑制に効果的です。

※稲の出穂期前後に刈取ると、カメムシ類を水田に追い込んでしまうので、時期を逸さないようにしましょう。

□出穂期以降の薬剤防除

- ・薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- ・ホタルイ残草田では、1回目の防除時期を早めましょう（出穂始～穂揃期）。
- ・出穂後、やむを得ず水田周辺の牧草等を刈取る場合は、刈取り後直ちに水田の薬剤防除を実施しましょう。

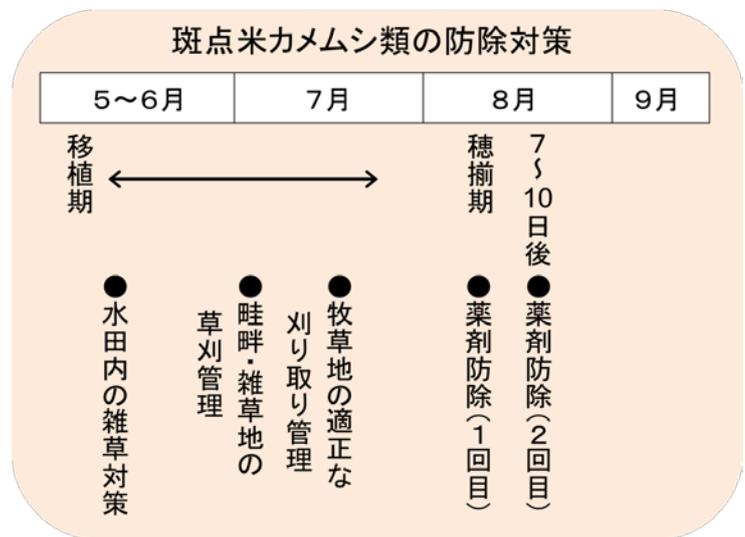
□雑草刈取り及び薬剤防除は広域的に行うと効果が高いので、地域一斉防除に努めましょう。

□ヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類を水田に呼び寄せてしまいます。斑点米カメムシ類の対策を徹底しましょう！



< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ



4 直播栽培における管理のポイント

【7月10日調査結果】

- ・湛水直播栽培の普及展示ほの生育について、草丈、茎数は前年を上回っており、有効茎数に達しています。葉数や葉色は、前年並みです。

□ 直播きの生育調査結果

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈		茎数		葉数		葉色	
		本年	前年	本年	前年	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差	(GM)	前年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/9	5/9	59.4	65.5	55.8	106	548.8	131	9.8	▲ 0.3	44	▲ 0.1

① 水 管 理

- ・中干し以降の水管理は、基本的には移植栽培と同じで、原則として間断かん水とします。

② 追 肥

- ・減数分裂期に1回、窒素分量で10a当たり1kgが基本です。
ただし、倒伏等の恐れがある場合は行わないようにしましょう。

③ 病害虫防除

【葉いもち】

- ・葉いもちの早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展する場合がありますので、初発の確認が遅れないようにしましょう。

【イネツトムシ（イチモンジセセリ）】

- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では、7月中旬頃の葉色が濃く、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生予察情報や現場の発生状況をもとに、8月上旬頃の若齢幼虫の発生最盛期に防除しましょう。



幼 虫



ツト（ツトの中に蛹がいます）



成 虫

図 イネツトムシの幼虫・ツト・成虫

- ❑ 最新情報で農薬登録を確認のうえ、使用してください。
- ❑ 農薬使用の際に飛散防止対策を講じましょう。

○令和2年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）